
赤い鈴

尼野邪紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤い鈴

【Nコード】

N4482M

【作者名】

尼野邪紅

【あらすじ】

戦争のせいで引き裂かれた男女の物語。beatmaniaの「赤い鈴」を小説にしてみました。

女（前書き）

拙い文でスミマセン。

女

私は戦争が嫌いだ。大好きな彼を奪ったから…

「じゃあ行つて来るよ。」

軍服姿の彼が私に告げた。

「絶対に帰ってきてね。私、待ってるから。」

「うん。そうだ！此。受け取って！！」

彼から受け取った物…

「此は…鈴？綺麗な音。良いの？」

「ああ。僕が帰るまで持つて。必ず取りに来るから…そしたら」

— 泊置いて…

「そしたら？」

「結婚しよう！それまで鈴が指輪代わりだから。」

私は嬉しかった。指輪では無いけど、今は仕方無い。

「…はい。私、信じてる。だから必ず…」

そう言つて二人はキスをし、彼は戦争に向かい彼女は待った。

— 数日後 —

戦争が終わり兵士達は自分達の帰る場所に戻って行く。しかし、彼は戻って来ない…。

「お気の毒にね。貴女の彼は戻って来ないなんて…」

近所の老婆が笑いながら私に言う。

「いえ、彼は必ず帰って来るって約束しました。」

「でも、現に帰って来ないじゃないかい。きつと…」

「絶対に帰ってきます！」

私は老婆を否定した。

「いい加減諦めたらどうだい？彼は戦死したんだ！現実を受け止めなさい。」

老婆は子供に優しくするように告げる。

「貴様、嘔吐き嘔吐き！彼は帰ってくると言ってるじゃないか！！この嘔吐きめ…嘔を吐く貴様の舌なんぞチョン切ってやる。」
「ひいい〜！」

老婆は一目散に逃げていた。

嘔吐き嘔吐き嘔吐き嘔吐き嘔吐き嘔吐き嘔吐き！皆、嘔吐きだ！！戻って来るって言ったじゃない？ねえ、お願いだから早く帰ってきてよ…

私の精神は限界だった。頭の中では走馬灯のように彼との思い出がグルグルと回っていた。発狂し壊れてもただひたすらに待ち続け…

…部屋の中には彼から貰った鈴の音が鳴り響いた。

男（前書き）

切り替わって“彼”視点。ラストはホラー風のアレンジします。

男

僕はある朝、軍の責任者になった。

「僕には待つてゐる人が居るんです。早く帰らせて下さい！」

「駄目だ。まだ終わっておらん！貴様は我が軍の責任者なんだぞ？ちゃんと従え。」

戦争はもう終わったというのに：何故帰れないのだろうか？

「しかし：我が軍は勝ったんですよ？何故、まだ此処に留まってるのですか？」

「確かに勝った。：が、勝利の余韻に浸ってる時こそ気を引き締めねばならないのだ。：でないと撃たれるぞ。」

上司は指で鉄砲を作り僕を撃つ真似をする。

「そ、そんな…」

こんな馬鹿げた事がいつまで続くのだろうか…

―数週間後―

上司も安全宣言を出し、僕はようやく彼女の元へ帰れた。

何て声掛けよう？ゴメン、待たせて…かな？ただいま…とか？さあ、結婚しよう…かな？

やっと帰れて嬉しいのに、何だろ？胸がざわめく。気のせいか鴉がまるで僕を嘲笑うかのように鳴いている。

考え事をしていると…彼女の家に着いてしまった。僕は、扉をノックし彼女を呼ぶ…が、返事はない。もう一度呼んでみるがやはり返事がない。思い切ってノブを回してみると鍵は開いていた。

「おい、帰ってきたよ。何処に居るんだ。」

探してみるが彼女の姿は見当たらない。

「何処に行ったんだろうか。…ん？」

りいん…りいん…

遠くから鈴の音が聴こえた。

りいん…りいん…

やがて鈴の音は近付き…

「嘔吐き嘔吐き嘔吐き嘔吐き嘔吐き嘔吐き！」

彼女の声がし僕は彼女を探した。しかし彼女の姿は何処にも無く…

「何処に居るんだ。出てきてくれ。」

「嘔吐き嘔吐き嘔吐き嘔吐き嘔吐き！」

僕は彼女を探す。部屋の中には鏡があった。其処に映っていたのは…

僕と…

血まみれの彼女だった…

「ずっとずっとずっと待ってたのに…すぐ戻るって言ったのに…嘔吐き嘔吐き嘔吐き嘔吐き！」

鏡にしか写らない彼女が耳元で囁いた。

「待ってくれ！僕は早く帰ろうとしたんだ。でも…」

「言い訳なんて聞きたくない！どれだけ寂しかった事が…でも大丈夫。」

首に手が掛かった。

「モウズットー緒ダカラ…」

「うわあああ！」

僕は恐怖で叫んだが首に冷たい手が力を掛け息が出来なくなった。

苦しい…。怖い…。離して…。誰か、助けて…。タス…ケテ…

部屋中に鈴の音が鳴り響く。赤い赤い鈴の音が…

「ズットー緒ダヨ。ウフフフ…」

彼女が嬉しそうに告げたがその頃には意識は遠のいていた。

ー了ー

男（後書き）

コレを読んだ後にギタドラのクリップを見ると分かりやすいかと思
います。

b e a t m a n i a は色んなクリップがあるので興味のある方は Y
o u T u b e などで見てくださいね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4482m/>

赤い鈴

2010年10月9日00時09分発行